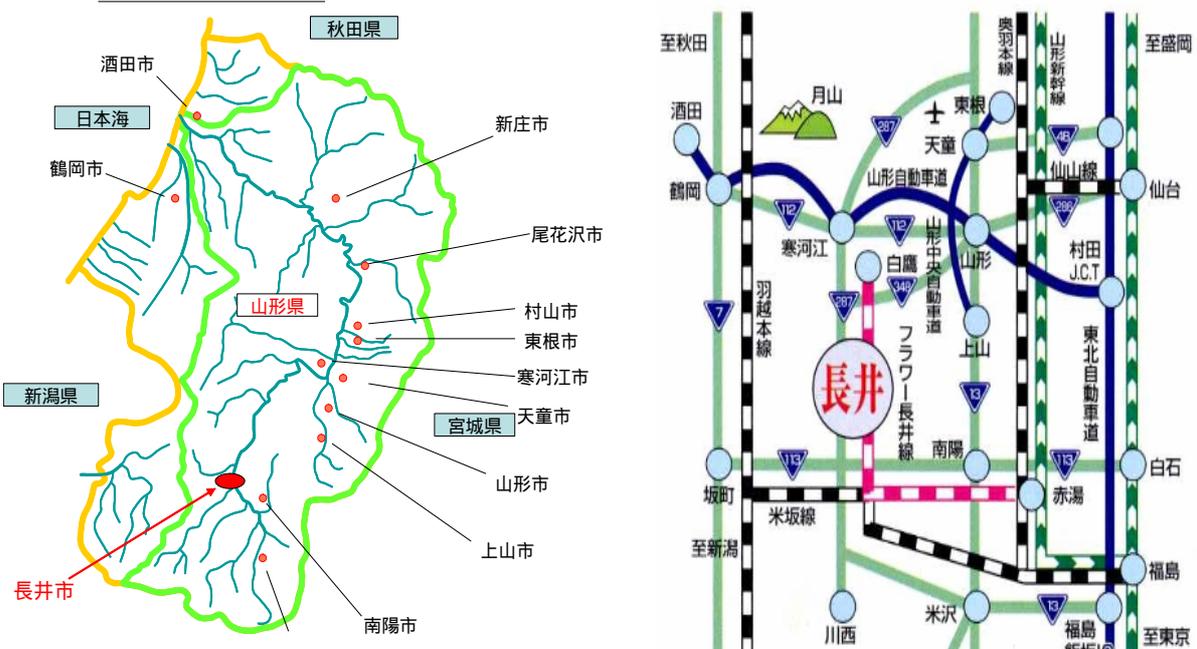


観光社会資本の事例

テーマ	川集うまちながい みずはの小道 (最上川フットパスながい)
【施設の状況写真】	
	
<p>最上川と置賜白川が合流する「最上川ビューポイント」。葉山を遠景に眺める景色を楽しむことができます。</p>	<p>最上川と置賜白川沿いに川と街をつなぐフットパスを整備。木道で河畔林などの散策が楽しめます。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>長井市内の街並みや名所の散策を楽しむ観光客。</p>	<p>ウォーキングを楽しむ方々。フットパスには飛び石などもあり、水と親しむことができます。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>フットパスとは「歩くことを楽しむための道」のことをいいます。英国において同種の小みちが「FootPath」と呼ばれていることからこの言葉を用いています。美しい自然を持つ最上川と、その周辺の自然や地域の歴史・文化等の観光資源を「フットパス」で結び、自然に親しみながら歩く楽しみのある空間を整備しました。</p>	
<p>NPOが中心となって「ガイドマップ」を発行しており、長井市内の名所・旧跡や最上川沿川をつないだ10ルートが紹介されています。また、観光ボランティアガイドも配置されており、観光振興に大きく寄与している。さらに毎年、5月に開催される「全国白つつじマラソン大会」に、今年から、フットパスコースに「ウォーキングの部」を新設するなど利用が進んでいます。</p>	

テーマ	川集うまちながい みずはの小道 (最上川フットパスながい)
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 最上川フットパス</p> <p>所在地 山形県長井市</p> <p>事業名 直轄河川環境整備事業</p> <p>事業主体 東北地整山形河川国道事務所、長井市</p> <p>事業期間 平成15年～平成16年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>最上川は、豊かで美しい自然を有し、沿川にはたくさん観光資源があることから、これらの魅力と魅力を「歩くことを楽しむための小みち(フットパス)」で結び、地域を訪れる観光客を増やすことにより、観光による地域振興を支援するものです。各観光資源が点として機能していなかったことから、これらをフットパスで結ぶことにより、魅力と魅力が連続する線となります。これによって、川と街の相乗的な魅力の向上、新たな観光ルートの創出により、観光客の増大を図るものです。さらに、近年のブームとなっているウォーキングイベントやグリーンツーリズム、エコツーリズムのフィールドとしても利用価値があるとともに、水辺を散策することによる健康増進や癒しの水辺としても利用できます。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】長井市ホームページ http://www.nagaiwalker.com/footpass/</p>	